

自分の思いを豊かに表現し、学び合うことのできる児童の育成
～「言語活動の充実」を図った授業を通して～

会津美里町立高田小学校 (代表) 校長 渡部 隆一 教諭 佐々木 豊

1 研究の趣旨

学習指導要領の改訂に当たって充実すべき重要事項の第1として言語活動の充実が挙げられ、各教科等を貫く重要な改善の視点として示されている。本校でも自分の思いを豊かに表現し、学び合うためには、全ての教科等で言語活動の充実を図った授業の実践が大切と考えた。そこで、教科を道徳(低学年)と算数科(中・高学年)の2つに絞り、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

普段の授業や学校での日常生活の場面において、次のような3つのかかわりを大切にしたい手立てを講じていけば、言語活動の充実が図られ、自分の思いを豊かに表現し、共に学び合う児童を育成することができるであろう。

- ① 自分とのかかわり<自己肯定感を持ち、主体的に学ぶ子どもを育てるために>
 - 多様な追究・発展的な学習ができるようにする。
 - 自己の学びの振り返りができるようにする。
- ② 他者とのかかわり<教師や友達とのかかわりから、考えを交流することができる子どもを育てるために>
 - 教師が適切な支援を行う。
 - 親和的な学級集団をつくる。
- ③ 教材とのかかわり<知的好奇心を喚起する価値ある教材との出会いから学ぶことができる子どもを育てるために>
 - 子どもの実態を的確に把握する。
 - 確実な教材研究をもとに授業展開を工夫する。

2 研究の概要

(1) 道徳(低学年)

- ① 興味、関心をもたせる資料提示の工夫(挿絵を使った読み聞かせ、紙芝居、ペープサート、資料の分割)
- ② 一人一人に自分の考えをしっかりとめさせるワークシートの活用(吹き出し・挿絵の工夫)
- ③ 話し合い活動や動作化の工夫(ペア・小グループ・全体での話し合い、動作化)
- ④ 意欲をもたせる終末の工夫(保護者からの手紙、隣のクラスの友達からの手紙、インタビュー紹介)

(2) 算数科(中・高学年)

- ① 子どもの意欲を高め、課題をとらえさせる資料提示の工夫(ブラックボックスの利用、実物の提示)
- ② 自力解決を助ける支援(既習事項の掲示、ヒントカード、実態把握をもとにした個に応じた助言)
- ③ 話し合いの活動の工夫(ペア・小グループ・全体での話し合い、比較検討の視点、発表の型)
- ④ シラバスの活用(チェックテスト、自己評価や学習感想の記述、教師の励ましのコメント)

(3) 日常指導

- ① 読書活動の推進と新聞の活用
- ② 「高田っ子の生活」や「高田っ子の学習」による基本的な生活習慣の指導や学習訓練
- ③ 家庭との連携(音読カード、家庭学習カード)

(4) ワークショップ型の事後研究会(参観者の記入した付箋の活用)

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 道徳では、資料提示を工夫したことにより資料に興味・関心を持たせることができ、内容の理解にも効果的であった。ワークシートを活用し書く活動を取り入れたことにより、一人一人に自分の考えをしっかりと持たせることができた。授業の終末の工夫で自己満足感をもたせることにより、意欲の持続が図られた。
- ② 算数科では、導入を工夫したことにより、授業に興味・関心を持たせ課題をとらえさせることができた。既習事項を基にして考えることで、本時のねらいに迫ることができた。ペア・小グループ・全体での話し合い活動や発表の仕方などを工夫することで、言語活動を活発に行うことができた。自己の学びの振り返りに、シラバスを使い、理解がより確かなものになった。
- ③ ワークショップ型の事後研究会では、付箋の活用により良かった点や改善点が視覚化され、さまざまな意見を集約することができた。課題や改善策を短時間で確認することができ効率的であった。参加者が経験年数や専門教科にとらわれずに意見を出し合い、それぞれの意見を尊重することにつながった。

(2) 今後の課題

- ① 道徳では、ワークシートの作成と合わせて、揺さぶりをかけた発問や本音を引き出す話し合いの持ち方をさらに工夫することにより、価値に迫る話し合いができるように研究を進めていきたい。
- ② 算数科では、解決の見通しの持たせ方や児童の発表を教師が整理し練り上げていく授業の展開の仕方、自力解決や話し合いにかかる時間と適用問題にかかる時間の配分をさらに工夫したい。
- ③ ワークショップ型の事後研究会では、グルーピングの工夫や課題の焦点化について検討していきたい。